

正副議長定例記者会見（令和5年9月定例会）

日時：令和5年10月4日（水）13：30～13：42

場所：観光スポーツ文教警察委員会室

高山議長



福羅副議長



（南海放送：幹事社）

それでは定刻になりましたので、正副議長の記者会見を始めさせていただきます。よろしく申し上げます。

なお、議長は、次の公務がございますので、記者会見の時間は13時50分までとさせていただきます。まずはじめに、議長から御挨拶をお願いします。

（議長）

まず、補正予算については、現下のエネルギー価格や物価高騰の長期化に伴う県独自の対策、アフターコロナを見据えた海外展開や販路開拓の促進、防災減災対策の更なる推進など、本県を取り巻く諸情勢の変化に即応できたのではないかと考えております。

予算以外については、デジタル人材の育成や核燃料税の継続課税のための条例制定、ねんりんピックの成功に向けた取組状況、県民文化会館南側県有地の活用策等に関し、活発な質疑を通じ、意義ある議論が交わされたものと評価しております。

また、本日、濱里政策推進統括部長を副知事に充てる人事が決定されました。濱里氏には、これまでの職務経験と若さを存分に活かして、田中副知事との連携の下、中村知事を適切に補佐し、県の政策立案機能の強化や県内の諸課題の解決に向けて、御尽力をいただきたいと期待しております。

(南海放送：幹事社)

ありがとうございます。次に、副議長お願いします。

(副議長)

議長と同様ですが、当面抱える県政の諸課題への対策につきまして、議論を深めることができ、一定の成果を挙げることができたものと考えております。

(南海放送：幹事社)

ありがとうございます。それでは代表質問がありますので、確認させていただきます。来月、コロナ後において初めて本格的な議員の南米の海外派遣があると伺っています。改めて、今回の南米派遣の意義と期待する成果について教えてください。

(議長)

今回の海外派遣は、4年ぶりとなるもので、11月9日から18日にかけて7名の議員を派遣します。在ブラジル愛媛県人会創立70周年記念公的訪問団に参画して、ブラジル、パラグアイを訪問する計画です。同地への視察団としては、平成25年度以来、10年ぶりの訪問となります。派遣議員は、記念式典に参加するとともに、本県出身の移住者やその子弟との交流などを深め、諸行事を通じて友好関係の更なる深化を図っていただけると考えております。さらに、現地の行政機関への表敬訪問なども計画しており、今後の政策立案に係る新たな発見をしてくれるものと大いに期待しております。

(南海放送：幹事社)

続いて、副議長よろしくお願いします。

(副議長)

議長から申し上げたとおりですが、今回の派遣は、県の海外協会が主体となって編成する訪問団のうち、知事をはじめとする行政関係者から成る公的訪問団に参画して、各国との友好親善の促進等を図るものであり、県政の発展につながる有意義な派遣であると考えています。

(南海放送：幹事社)

ただいまのお答えにつきまして、質問があれば、各社よろしくお願いします。

(読売新聞)

お一人当たりの費用と総額について、教えていただけますでしょうか。

(議長)

一人当たり約 110 万円で、渡航費、宿泊費等を見込んでおります。総額は、これに掛ける 7 名です。

(読売新聞)

770 万円ですね。110 万円の主な内訳はどうですか。

(議長)

今申し上げたように、渡航費や宿泊費等になります。

(読売新聞)

例えば、航空券のクラスとか、宿泊先など具体的に教えてください。

(議長)

航空機はエコノミーです。

(読売新聞)

航空券はエコノミーということですが、客室、宿泊施設も通常のお部屋ですか。

(議長)

今まで、本県は高額な宿に泊まったことはないのではと思っています。

(読売新聞)

コロナ明けで地方議員の海外視察が結構活発になっていて、一方でお隣の香川県が 260 万円でしたか、ちょっと高額ということで批判を浴びたことがありましたが、議長御自身、改めて現地に行く必要性、金額の妥当性について伺えますか。

(議長)

今回は、歴史ある在ブラジル県人会との交流、周年行事が中心ですから、積極的に参加すべきと思っております。費用についても、他県を調べていただいても分かりますが、本県は少ないのではないかと思います。県民から、批判されるような金額や内容にはなっていないと私は考えています。積算は事務局が行っていますので、御理解いただきたいと思っております。

(読売新聞)

実際、香川で訴訟になったりして、住民の目線というか、近年厳しくなるというところで、いかに理解というか、愛媛県議会として再開するに当たりですね、何か準備、変えるために新たにすることとか、これまでしてきたこととかあれば教えていただけますか。

(議長)

これまでも実施してきたところですが、派遣の実績や成果について、帰国後、派遣団から私に報告書の提出があり、直近の議会運営委員会でも報告することとしています。また、報告書は、議会図書室で閲覧ができるようにするとともに、議会のホームページにも掲載しますので、御理解いただけると思っています。

(読売新聞)

意義があるということですがけれども、デジタルが普及し、オンラインでの視察でも可能じゃないかという見方も、全国見ればあるようですがけれども、そういう指摘について、議長はどういうお考えですか。

(議長)

やはりこれは交流ですから、パソコンの画面同士で交流できるものではないのかなと思います。現地に行って、時間をかけても、また費用がかかるかもしれませんが、対面でお互いの交流を深めることが大切であり、当然のことではないかと思います。画面だけではなかなか理解できないところもあります。対面で現地の方々としっかりと様々な交流を深めさせていただくことに意義があると思っています。

(読売新聞)

そのようなことがあったということをしっかり報告したいという御趣旨ですかね。

(議長)

報道機関をはじめ、県民の皆様方がどう評価されるか、判断されるかですが、その辺りについては、私も参加しますので、訪問議員団にきちんと報告書を出していただくようお願いし、県民の理解を得るための努力をさせていただきたいと思っています。

(読売新聞)

必要な視察ではあるけれども、重要な理解というのは当然、これまでもやってきたように理解が得られるように、取り組んでいきたいという考えでよろしかったでしょうか。

(議長)

そうです。議員は、各人考え方や見方も違うかもしれませんが、県内だけでなく、他県の状況などについても見聞を広げるべきであり、地方議員と言えども、国際情勢がグローバル化する中、人的交流をはじめとした視察を行うことは重要と考えています。

(南海放送：幹事社)

ほかに質問がありましたら、お願いします。

(愛媛新聞)

今の段階の視察日程はどうなっていますか。

(事務局長)

後ほど、事務方からレクします。

(南海放送：幹事社)

代表質問以外でも、質問のある社がありましたらお願いします。よろしいですか。では、終了したいと思います。

※議事録については、読みやすさや分かりやすさを考慮し、発言の趣旨等を損なわない程度に整理しております。